

朝鮮人の商業

朝鮮人の商業

西紀

一九二五年
一九九七年

五月二十五日
二月二十五日

發行
影印

編著者 朝鮮總督府

影印者 洪起元

頒布處 民俗苑

서울 衿川區 始興洞 二七〇一四

전화·팩스(02) 八〇二一三三二〇番

등록 九〇·八·二十二 刊 十八一 一호

頒布價 二八、〇〇〇원

朝鮮人の商業

目次

第一章 商業都邑及店舗

第一節 著名なる商業地

商業都邑の分布……………一頁

内鮮外人別商業者數……………四

商業取引不振の原因……………八

第二節 開城の商業組織……………一一

商業發達の沿革……………一二

商人及商賈……………一三

取引の方法……………一五

地方行商人……………一八

塵契・博物契……………二〇

都 家 二六

市場の商業 二七

金融の方法 二八

第三節 店舗及看板 三二

第二章 商人の種類及性質

第一節 問屋營業 六七

京城に於ける物産客主 六九

第二節 仲介營業 七四

居 間 七四

福徳房 七五

第三節 小賣商及行商 七七

散賣商 七七

襷負商 七八

第四節 運送及倉庫業 八一

運送取扱業者.....八一

運送營業.....八二

倉庫營業.....八三

第五節 質屋.....八五

第三章 商業取引慣習

第一節 商標及商號.....九一

標の意義.....九一

商標の名稱.....九六

商號.....九八

第二節 商業使用人.....九九

第三節 賣買仲介手数料.....一〇〇

商品賣買仲介手数料.....一〇一

土地家屋賣買仲介手数料.....一二一

第四節 金利及支拂方法	二四
-------------	----

利息及支拂期限	二四
---------	----

典當局利率	二六
-------	----

相互計算	二七
------	----

賣買の費用	二七
-------	----

第四章 手形・證書・帳簿・商業用語

第一節 手形	一九
--------	----

於音・魚驗	一九
-------	----

換簡	二一
----	----

第二節 證書及帳簿	二八
-----------	----

證書	二九
----	----

帳簿	三五
----	----

第三節 開城簿記	三六
----------	----

開城簿記の性質	一三六
特用文字及符號	一三八

第四節 商業用語	一八一
----------	-----

第五章 商人の共同團結

第一節 共同出資	一〇一
----------	-----

同事	一〇一
----	-----

匿名組合	一〇三
------	-----

會社	一〇四
----	-----

第二節 契	一〇六
-------	-----

第三節 同業組合	一一一
----------	-----

開城蔘業組合	一一三
--------	-----

京城布木小賣商組合	一一三
-----------	-----

第六章

賣買取引の狀況

大邱漢藥業組合	二三八
京城典當舖組合	二三三
委託販賣業	二四六
穀物商	二六四
食料品商	二七一
布木小賣商	二七八
薪炭油商	二八二
雜貨商	二八八
陶磁器商	二九六
金物商	三〇〇
靴及鞋商	三〇四
木製家具商	三〇六
紙筆書籍商	三〇九

第七章 商品需給の大勢

骨董品商	三二二
金銀細工商	三二三
藥種染料商	三二五
儀式用具販賣貸	三二八
飲食店	三三一
露店及行商	三三四
運送取扱業	三三七
第一節 食糧品	三三一
第二節 嗜好品	三二〇
第三節 衣料品	三四七
第四節 必需品	三五一
第五節 原料品	三五八

第六節 最近の貿易統計.....三六五

貿易價額表.....三六五

國別貿易價額表.....三六六

陸接國境貿易價額表.....三六八

港別貿易價額表.....三六九

重要輸移出品累年比較表.....三七一

重要輸移品累年比較表.....三八一

第七節 特産物の生産及取引.....三九六

特産物生産趨勢.....三九六

特産物の取引方法.....四〇〇

地方の取引慣習.....四一八

圖表

穀物類一人當消費高

米の生産高及貿易高比較表
酒及煙草一人當消費高
砂糖及鹽一人當消費高
織物類一人當消費高
石油一人當消費高

寫 眞

舊時の京城南大門
現今の京城南大門
京城南大門通
京城朝鮮人市街
開城都市街
開城の都家
同
開城布木店
開城雜貨店

鞋	真	金	陶	同	荒	同	布	穀	同	同	開	質	同	福
	鍤		物		物		木	物			城			德
	器										簿			
											記			
											(其			
											一)			
											屋			
														房

薪	松	帶	籠	同	飲	儀	同	藥	金	笠	筆	紙	同	家	同
行	業	紐	行		食	式		種	銀	修				具	
商	行	類	商	商	店	用	具	店	細	理	店	店		店	
	商	行				販	賣		工	業					
						店	店		場						

朝鮮人の商業

第一章 商業都邑及店舗

第一節 著名なる商業地

商業都邑の分布 古來朝鮮人の商業取引は、大部分物々交換時代の遺物たる舊式の市場に於て行はれ、常設店舗に於て營業するものは極めて尠く、従つて其取引方法も甚だ幼稚にして、また賣買高も至つて僅少であつた。斯くの如きを以て自然商業地として重要な都邑は洵に寂々寥々たるもので、殊に日本人の商業勢力の扶植されざる以前、即ち李朝末葉の商業都邑は實に貧弱なるものであつた。日韓併合以後は内地人の數が増加し、當局の施設獎勵と相俟つて、各地の商業狀況は面目を一新するに至つたけれども、尙今日に於ても朝鮮に於ける商業地としては、僅に京城、平壤、釜山、大邱、仁川、元山、群山、木浦、新義州、馬山、鎮南浦、清津、金泉、開城等を數ふるのみである。これらの都邑も支那滿洲や内地の商業地に比較すると、其經濟上の實力は霄壤の差ありと云ふも過言であるまい。而して以上の商業地も貿易港にあらざれば、殆んど純然たる消費的都邑にして、將來物資集散

増加の餘地大なるものは甚だ少い状態にある。然しながら試みに朝鮮全道に於て比較的商業取引の盛んなる都邑を、各道別に就いて示して見ると左の如きものである。

朝鮮に於ける商業都邑

京畿道 京城、水原、開城、永登浦、仁川、平澤、安城、利川、漣川

忠清北道 清州、堤川、忠州、芙江

忠清南道 大田、江景、公州、烏致院、洪州、禮山、天安、論山、成歡

全羅北道 群山、全州、苗浦、南原、金堤、裡里、井邑

全羅南道 木浦、羅州、榮山浦、咸平、光州、麗水、順天、濟州

慶尙北道 大邱、金泉、慶州、安東、浦項、尙州、倭館、慶山

慶尙南道 釜山、東萊、龜浦、金海、密陽、蔚山、馬山、鎮海、統營、晋州、河東、居昌

黃海道 載寧、黃州、兼二浦、沙里院、新幕、海州

平安南道 平壤、安州、鎮南浦、廣梁灣、成川

平安北道 新義州、義州、龍巖浦、車輦館、宣川、定州、江界

江原道 春川、江陵、鐵原、原州、平康

咸鏡南道 元山、咸興、北青、西湖津、永興

咸鏡北道 清津、鏡城、羅南、會寧、城津、雄基

右の都邑は概して消費都邑で、李朝以來純然たる商業地として發達した都市は僅に開城のみにして其他に在りては、政治的關係に依りて發達したる商業地として、京城、水原、清州、公州、全州、光州、大邱、慶州、晉州、東萊、清州、平壤、義州、春川、咸興等あり、外國貿易に依りて發達したる商業地は、仁川、釜山、群山、木浦、馬山、鎮南浦、新義州、元山、清津、雄基等を數へ、鐵道の開通に依りて急速に發展したる商業地としては、永登浦、大田、鳥致院、天安、金泉、裡里、松汀里、羅州、沙里院、新幕等を算し、前記の貿易港以外に、河海の舟運を利用して商業取引の發達したる都邑としては、江景、論山、榮山浦、浦項、麗水、統營、河東、兼二浦、會寧、城津等がある。

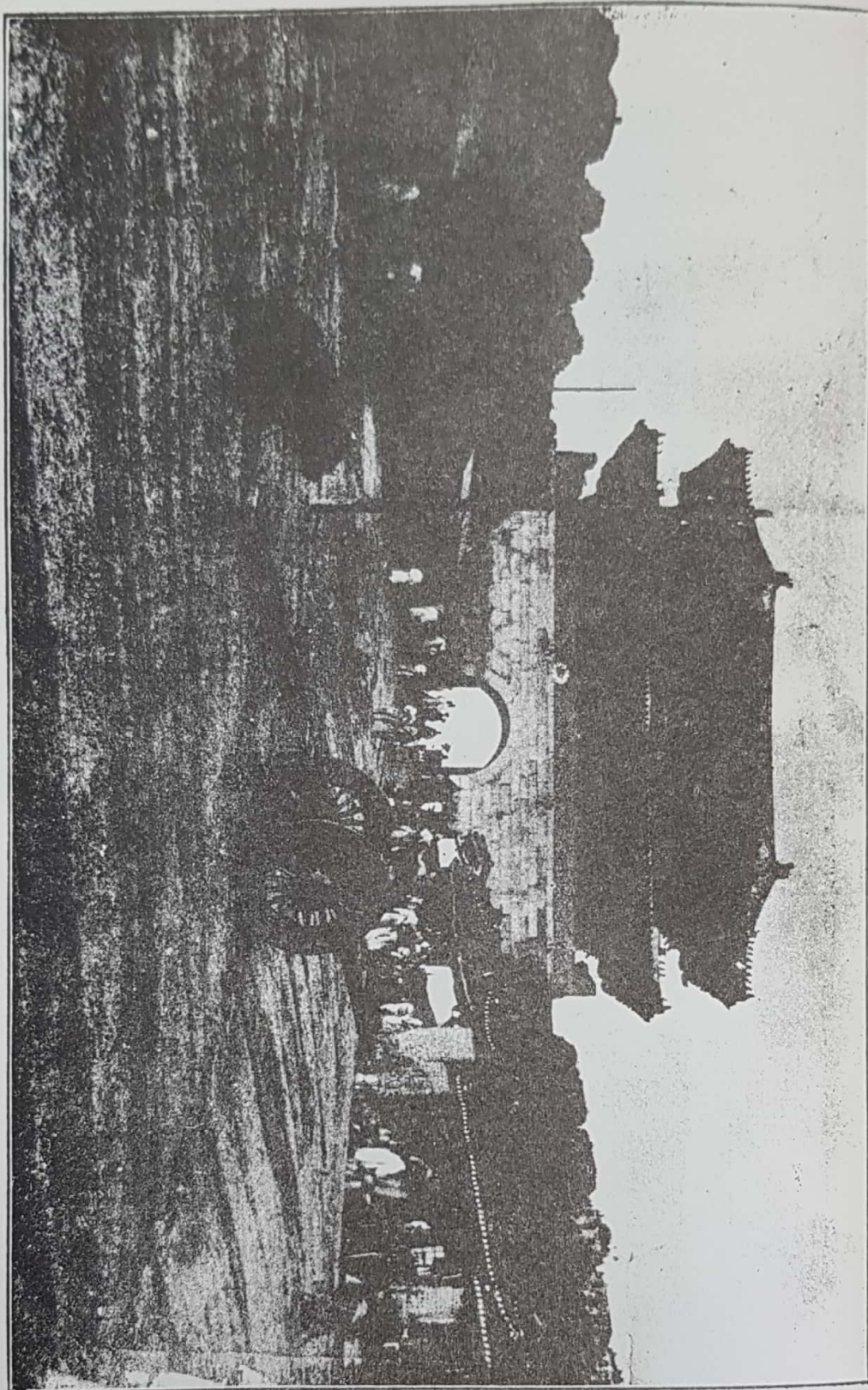
由來商業都邑發達の第一要件は、物資の消費力が旺盛にして、且つ背後に有力なる生産力を控へて居り、加ふるに交通機關の完備殊に港灣の改良と鐵道網の普及して居ることが必要にして、最早近代の商業は漢江や錦江や洛東江や禮成江の如きもの、舟運を利用する位では、到底需給の頻繁にして貨物の輻輳著しき取引には不充分である。是れ古來三大市場の一と稱せられた江景や、忠南の大都會たる公州の如きが、附近の裡里や大田等に壓到され、緩慢なる河江の舟運よりも、敏速なる鐵道の輸送

力の方が、如何に地方都邑の商業發達に大なる關係を及ぼすかを如實に示し、また嘗ては全鮮の商業上に覇權を握つて居た開城の商業が、今や交通機關變遷の影響を受けて、禮成江の舟運を利用したり馬背擔軍などによつて行商して居た時代は去り、鐵道が延長するに従ひ、昔日の勢威は失墜して、僅に一地方都邑たるに止まつて居る事實に徴しても、鐵道の普及は、地方産業の振興と相俟ちて、朝鮮の商業發展上緊要なることである。

内鮮外人別商業者數 而して朝鮮に於ける主要なる商業地に就き、内鮮外人別商業者戸口數を見るに、大正十二年末現在に於ては即ち左表の如くなつて居る。(本表は大正十三年十二月各府郡に照會して調査した數字である。)

主要商業地内鮮外人別商業者戸口數一覽表 (大正十二年末現在)

地名	内 鮮 外 人 別			朝 鮮 人			外 國 人			合 計		
	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口	戸 數	人 口
京 城 府	六、一七〇	二五、〇五二	一七、七八一	八四、四五四	四七七	二、四七八	二四、五二八	一二、九七四				
京 仁 府	九二五	四、〇一八	二、九四〇	一三、〇五三	一九三	七、七五	四、一〇八	一七、八五六				
畿 開 城 郡	八三	三、三八	三、四〇一	一九、二四七	九〇	九三	三、五七五	一九、七二八				
道 水 原 郡	一六一	七、〇九	四、六九	二、三三二	一五	五〇	六、四五	三、〇八一				
始 興 郡	九二	三、七〇	二、九	一、二二八	四	二二	三、九五	一、五二〇				



門 大 南 城 京 の 時 舊

第一章 商業都邑及店鋪

全羅南道				全羅北道				忠清南道				忠清北道			
同郡	羅州郡	同郡	光州郡	木浦府	井邑郡	益山郡	全州郡	同郡	燕岐郡	天安郡	同郡	論山郡	公州郡	大田郡	清州郡
榮山面	羅州面	松汀面	光州面	府	井邑面	益山面	全州面	論山面	鳥致院面	天安面	論山面	江景面	公州面	大田面	清州面
五三	四三	一一〇	二〇五	五八八	一四四	三〇〇	三四二	四〇	一一二	一二五	二四五	九二	四七三	二二	二〇三
二二五	二二五	四五五	八六九	二、九七二	五二六	一、一五〇	一、四三二	九四	四五五	三七九	八二三	六〇八	一、七七六	三三	九一三
一九一	二八九	一八二	五八九	一、七九三	二九一	三三四	一、一五	七九	二三四	三四〇	四五〇	四五三	二二二	六四	二七九
一、〇〇	一、四〇一	七四一	三、一九六	八、九八六	一、四九八	一、二三四	六、八〇八	一三七	九五八	一、七七九	二、一八三	一、四五二	九六七	三三三	一、一六二
九	三	一七	一六	四一	一七	二五	二八	二二	一九	一八	四七	三三	二二	二	三七
三六	一〇	四五	五六	一四四	五九	九三	一二三	八五	五三	八七	一五四	一四一	九五	一〇	一九
二五三	三三三	三〇九	八一〇	二、四三二	四三二	六九九	一、四八五	一四一	三五五	四八三	七四二	五七八	七二八	八八	五九
一、二五二	一、六三六	一、二四一	四、二二	一三、一〇二	二、〇八三	二、四六七	八、三四三	三六	一、四六六	二、二四五	三、一六〇	二、二〇一	二、八三八	四〇五	二、一九四

朝鮮人の商業

慶尙南道										慶尙北道										道
河東郡	昌原郡	統營郡	密陽郡	蔚山郡	東萊郡	晉州郡	馬山府	鎭山府	青松郡	尙州郡	安東郡	慶州郡	迎日郡	金泉郡	大邱府	濟州島	麗水郡	麗水面		
河東面	鎮海面	統營面	密陽面	蔚山面	東萊面	晉州面	府	府	青松面	尙州面	安東面	慶州面	浦項面	金泉面	府	濟州面	麗水面			
四七	三一四	二五二	八六	三九	四八	一〇二	五〇三	三、九七五	九	九〇	七五	四七	三三三	三三二	一、一三〇	八五	一五三			
一九七	九九六	一、〇一七	三七〇	一六八	一五〇	八〇一	一、八九一	一七、一八	四〇	三五〇	二四〇	二〇八	一、〇一四	一、〇八六	五、六二四	二八	六〇四			
五三八	三八三	七〇四	四三九	三七八	四五六	八五〇	一、一七一	二、九〇二	七〇	四三七	三八一	五七五	五〇二	一、五〇六	一、四〇五	二二五	三〇五			
二、四二七	一、八三六	三、三三三	二、三三八	一、二九四	二、九三三	三、九六〇	五、五四四	一三、二五九	三〇五	二、二四四	一、七四〇	二、〇九二	一、八八一	七、七八五	七、七七九	九〇〇	一、二二五			
九	二	八	一	一五	二一	二〇	三六	五四	二	一四	八	九	一	八	三六	一	八			
三〇	六	二二	一	二八	一三	四〇	八二	二四三	五	五五	二〇	二七	一	七七	二七一	四	六			
五九四	六九九	九六四	五二五	四二二	五二五	九六二	一、七〇九	六、九三一	八一	五六二	四六四	六三二	七三五	一、八六六	二、五八三	二二〇	四六六			
二、六五四	二、八三八	四、三七二	二、七〇八	一、四九〇	三、一九六	四、八三二	七、六〇七	三、六八一	二、六四九	二、〇〇〇	二、三二七	二、八八五	八、七四八	三、五〇四	一、一八〇	一、九六六				

江 原 道				平 安 北 道				平 安 南 道			黃 海 道			
平康郡	鐵原郡	江陵郡	春川郡	龍川郡	江界郡	定州郡	宣川郡	義州郡	新義州府	安州郡	鎮南府	鳳山郡	黃州郡	海州郡
平康面	鐵原面	江陵面	春川面	龍川面	江界面	定州面	宣川面	義州面	新義州府	安州面	鎮南府	鳳山面	黃州面	海州面
一九	三六	四七	六三	三六	二八	五三	四八	一五	三六	五〇	一、三七八	二四	一、三八	九
九八	一六二	一九五	二三五	一二三	一二九	二四五	一七一	五三	一、三九九	一九七	二、二二	八五	六七五	五九八
四六九	四五一	二四七	二二七	六三八	四七一	三五〇	六〇五	二二	八八九	八五四	二、七三三	五四九	四〇八	一、二五八
一、五五五	二、二三五	一、〇七九	一、〇五八	二、三三七	二、四七二	一、七〇一	三、〇六二	七八二	四、一七一	四、七四三	二、一七三	二、六八四	二、〇九〇	五、二八一
一六	一五	四	四	七一	二二	一三	一五	三三	四五〇	一〇	六四	五	三二	二八
一一四	三一	二四	一八	二六七	二八	四一	三六	三六	一、〇〇七	四一	二八八	一八	五五	六五
五〇四	五〇二	二九八	二八三	七三五	五二〇	四一六	六七八	二四八	一、七三七	九一四	三、三二五	五七八	五七七	一、三八五
一、七六七	二、四一八	一、二九七	一、四〇一	二、六二六	二、六二九	一、九八七	三、二六九	八七一	六、五七七	四、九八一	一四、四四六	二、七六七	二、八二〇	五、七四四

朝鮮人の商業

道南鏡成				道北鏡成			
元	山	府		清	津	府	
咸興郡	咸興面	四八二	一、五五一	一、三八三	二、一七六	二、一七六	三、一三三
北青郡	北青面	三八	二七	一、九七	四八七	一、九六八	二、一六九
永興郡	洪仁面	五五	一九七	四八七	一、九六八	二、一六九	二、一六九
同郡	梧村面	一、三三三	二、一七六	二、一七六	三、一三三	三、一三三	三、一三三
會寧郡	會寧面	八八	五五	一、九六八	二、一六九	二、一六九	二、一六九
鐵山郡	鐵山面	五五	一九七	四八七	一、九六八	二、一六九	二、一六九
咸興郡	咸興面	四八二	一、五五一	一、三八三	二、一七六	二、一七六	三、一三三
北青郡	北青面	三八	二七	一、九七	四八七	一、九六八	二、一六九
永興郡	洪仁面	五五	一九七	四八七	一、九六八	二、一六九	二、一六九
同郡	梧村面	一、三三三	二、一七六	二、一七六	三、一三三	三、一三三	三、一三三
會寧郡	會寧面	八八	五五	一、九六八	二、一六九	二、一六九	二、一六九
鐵山郡	鐵山面	五五	一九七	四八七	一、九六八	二、一六九	二、一六九

一、本表中心は、朝鮮人の商業を主とし、外國人の商業は、附屬として記載する。

右の表を一瞥するに、中部朝鮮以前には比較的有力なる商業都邑多く、之に反して西北鮮には大

なる商業地が少いことが分るが、在來の朝鮮市場は商業都邑の發達せる朝鮮地方よりも、寧ろ西北鮮

地方の邊陲の地に巨額の取引高を有するものが多いのである。これによりて見るも、大體に於て朝鮮

商業界の現状は、なほ市場取引時代の域を脱し得ない状態に在るものと思はれる。

商業取引不振の原因 右の主要商業地に於ける内鮮外人別商業者戸口數を見るときは、各都邑